

しましま模様の石

岩石名

層状塩基性分化岩 Cumulate
(そうじょうえんきせい ぶんかがん)

時代 中生代白亜紀

地質区分 幌加内オフィオライト

産出地 士別市温根別マムシ沢



解説

オフィオライトだけの岩石

この斑れい岩にはハッキリとした縞模様があり、層状斑れい岩とよばれています。黒っぽいところは輝石などの有色鉱物が多く、白っぽいところは長石などの無色鉱物が多いため、明暗の縞をつくっているのです。この縞構造は、地下深くでマグマが冷えていくときに晶出した鉱物が、まるで地層のようにゆっくりと沈んで積み重なってできるのです。このように

状岩脈群のゾーンの岩石と考えられます。このように、士別市温根別の川原にはオフィオライト地帯でしか見

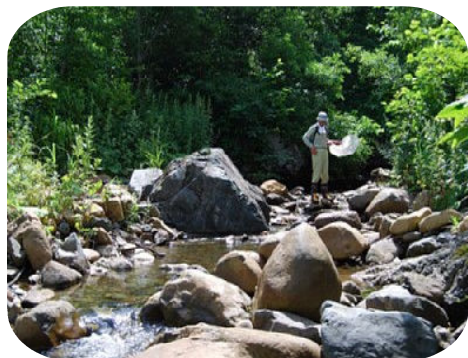


マムシ沢の転石の縞状斑れい岩

変に珍しい岩石がたくさん落ちています。一般にはあまり知られていませんが、士別市立博物館では、士別周辺のこうした価値のある岩石や鉱物を研究して、広く知ってもらいたいと考えています。

調べてみよう

- バンド（縞模様）ごとの鉱物のちがいをルーペで見よう。



士別市温根別マムシ沢

してできた深成岩を、沈積岩（キュームレイト）といいます。転石でしか見つかっていませんが、海洋地殻の下部にある、層